

N-LIFE

想造カンパニー日商インターライフの匠たち



代表取締役社長

SUDO AKIRA 須藤 亮

「私たちは100年企業に向けた強固な土台を造り上げ、工事会社としての「伝統」と「誇り」を胸に、業界での絶対的な下請ポジションの確立と、営業・制作・企画デザインが三位一体となり『想造カンパニー』を目指していきます」。

代表取締役社長の須藤亮は、株式会社日商インターライフの未来図を鮮やかに描き出す。目標実現のためには、どのような行動や意識の変化が求められるのだろうか。その想いに迫った。

人と人とのつながりに想いを馳せる

「あらゆる人々に感動と喜び溢れる快適空間を提供し、社会に貢献する」。

この経営理念には、仕事を進めていくうえで、会社が最も大切にしている想いが込められている。なかでも須藤が社員にしっかりと理解してほしいと考えるのが、「あらゆる人々」という言葉の意味だ。発注者や協力業者のみならず、施設を利用するお客様にまで想いを馳せながら仕事と向き

合うことの大切さを、汲み取ってほしいと思っているのだ。

「厳しい納期のなかで、ときには心の余裕が失われてしまったり、くじけそうになってしまったりする瞬間があるかもしれません。そういう場面でも、経営理念に込められた想いを、もう一度かみしめてほしいのです」。

直接、エンドユーザーからの声が届く機会はないかもしれない。しかし、施設の開店後に家族連れでショッピングを楽しむ多くの人の姿を想像するだけでも、いかに自分たちの仕事が社会に必要とされ、やりがいに満ちたものなのかを感じ取れるはずだ。

下請・元請・匠の連携で生まれる成果

日商ブランドは、半世紀の歴史を積み重ねて培ってきたものだ。首都圏の軽鉄工事における知名度と強力な職人ネットワークにより、会社は今や業界に欠かせない存在になりつつある。專業本



▲インセンティブ表彰式にて受賞者発表の瞬間

部の「下請」と商環境本部の「元請」が連携して企画から受注までを担い、プロフェッショナルの職人集団である「匠」が施工を行う。この三位一体の組織体制が日商の強みだ。さらに今後、社員が個人としての能力や業務の幅を広げていくことで、他の追従を許さないハイブリッド事業モデルが確立されるだろう。

また、体制の一角を担うのが協力会社であり、その存在なくして今日の日商インターライフはないと須藤は言う。

「社員の皆さんは協力会社の方々を非常に大切にしている、彼らの生活をどう守るかを常に考えてくれています。『仕事があれば彼らを支えられない』という想いがあるからこそ、私たちは積極的な営業展開を行っているのです。その気持ちに応えようと、協力会社の方々も昼夜を問わず協力してくださっています。多くの仲間にも恵まれていることは、日商インターライフにとってかけがえない財産です」。

社員の成長を促す風土づくりを

今後に向けた課題は、人財の確保だと須藤は考えている。職人については外国人実習生の採用などで一定の目的が立ったものの、施工管理者に関しては業界内での取り合いが相変わらず続いている。「氣」のあるところに、人は集まる。自信と誇りをもって働く姿を見てもらうことで、「日商の社員は良いな」と会社の魅力を感じてもらえる状況を、全員一丸となって作っていくつもりだ。

そのほかに鍵となるのが、社員の多能工化であ

る。「匠」では材工での取り組みを、少額案件からスタートさせていく予定だ。DX化で業務の効率化を図るのはもちろん、個々の社員が自然と新しい知識やスキルを習得しようとする文化、覚える喜びが溢れる雰囲気、多能工のように日商インターライフの社員に頼めば、何とかしてくれると言われる存在、そんな風土を根付かせ、日商インターライフならではの進化を遂げていきたい。

100億への「挑戦」から「確立」へ

第5次中期経営計画の目標は、100億円企業を確立させること。52期は売上100億に迫ったが、まだ実力や体制が十分に整っているとは言い難い。この数字を計画的に目指せる状態にしていくのが、第5次中期経営計画の主旨だ。

5年前に目標を掲げたときには「挑戦」という言葉を使ったが、もはやその段階は過ぎた。ただし過信は禁物だ。勢いには乗っていきたいが、背伸びをしすぎると思わぬところで足元をすくわれる恐れがある。どれだけ良い評判を積み重ねても、崩れるときはほんの一瞬。だからこそ地に足をつけて、真の実力を身につけていく必要がある。個々の一歩は小さくとも、130人全員が踏み出す一歩には強大なエネルギーがあることを、皆と一緒に証明していきたい。

「勢いのあるところには、あらゆる資源が集まります。S本部長の本気に期待しつつ、53期での売上100億も目指していければ」と、笑顔で語る須藤。未来を見据えた挑戦は、もう始まっている。



▲設立50周年記念パーティーの集合写真

今の心境はいかに？

部長座談会



組織体制が変わり新部長となった4名に、当時の率直な心境など4つの質問を投げかけてみました。すると、それぞれから忌憚なき意見が！今後の各部署の先行きにも関わる貴重な声の数々、必読です。



CS1部 部長

ひらの こういち
平野 浩一さん



CS2部 部長

さくらい たかゆき
櫻井 毅幸さん



CS営業部 部長

ながの かずひと
長野 一仁さん



CSクリエイティブ部 部長

こびやま あきひこ
媚山 昭彦さん

Q 部署変更を知ったときの気持ちは？

長野

大阪と東京の掛け持ちということで、当初は正直「やれるのか？」と思いましたが、今は「とにかくやるしかない！」という前向きな気持ちです。

媚山

私も同じです。初のクリエイティブ専門部署とあって一抹の不安もある一方、**専門性の追求への期待**も。実績を積み重ね、不安を自信に変えていきます。

櫻井

多少不安がありつつも、**半分以上は楽しみな気持ち**です。違う領域への挑戦になるので、自分の力が通用するのか、試す好機と捉えています。

平野

私は不安ばかりでした(笑)異なる業務の部署へ異動になったこと、部下が増えたことから、「**大変そうだな……**」と思ったのが当時の率直な気持ちです。今も不安はありますが、やるべきことに集中しようと切り替えています。

Q 新たな挑戦に向け、どう行動する？

長野

東京の営業メンバーは、2025年になって初めて名前も顔も知ったという状況なのですが、まずはこの1年、若いメンバーを**型にはめず、固定観念にとらわれずにのびのびと活動してもらおう**考えです。若さゆえの自由な発想があると思うので、これまでにない視点の気づきが生まれることを期待しています。また、今までは営業といいながら、制作現場のフォローにとどまっていた。先の展開を計画できるような「本来の営業の仕事」ができるように、最初の取っ掛かりを作りたいと思います。

平野

CS1部のキーワードは、「プロフェッショナル」。残業時間を増やさず結果を出し、「**やるべきことをやる**」という意識を浸透させ、全員が評価されてステップアップできたらと思います。まずはできるところからやっていきましょう！

櫻井

まずは現状把握を第一に考えています。新メンバーとコミュニケーションをとって個々の能力を明確に理解し、それをもとにCS2部の今後の方向性を定める考えです。生産性は重要課題になってくるとは思いますが、新たに増えるメンバーの人となりを知ることを、最初に行いたいと思います。

媚山

CSクリエイティブ部が目指すのは、**同じ労力で最大の成果を出す質の高いチーム**。その結果、利益向上・給与アップ・キャリアアップ・満足感向上と、より質が高まる好循環につなげる考えです。そのためには、まず私が現状を把握することが必要。最初に行うべきことが増えるのは私かな(笑)同じ労力で最大の成果を出せるよう、時間の使い方や質を上げるための行動を考えます。

Q 部長としてチームの士気をどう高める？

媚山

メンバー個々に目標を設定します。各自の目標達成が会社全体の成功や利益に結びつき、**個別の評価に反映されることが一番のやりがいにつながると**考えるからです。

櫻井

「達成」というのは、モチベーションに大きく関わりますよね。私も重要視しており、目標の達成方法を示すことや次世代リーダーの育成をすることが、私の重要な役割だと思っています。その役割を果たすため、**メンバーの個性を把握した上で、個々に応じた適切なアプローチ**に努めます。

平野

私も士気を高めるには、達成だけでなくその後の「評価」も重要だと思っています。**目標達成に対して高い評価を与え、その成功体験を通じて成長を促したい**。そうして次のリーダーの早期出現を期待します。

長野

日頃のコミュニケーションの積み重ねで、メンバーのモチベーションは変わると考えています。そのため、営業時の顧客との会話や物件の進め方のヒントを示したり、その時々で気づきを与えたりして、**若いメンバーが自発的に動けるよう働きかけたい**と考えています。

Q 社員の皆さんへのメッセージ

櫻井

仕事は楽しく行っていくべきだと思います。楽しく予算をクリアして、会社に貢献できるのが理想的。そのためには皆で同じ方向に向かって進んでいきましょう！

長野

そうですね、まずは楽しくやっていきましょう。仕事も楽しくなければ続けるのが難しくなると思います。一緒に頑張りましょう！

媚山

仕事には仕事ならではの楽しさがありますからね。そしてそれは、人それぞれ違うものです。互いに自分なりの楽しみを見つけて共有できる環境をつくりたいと思っています。

平野

仕事を楽しむことは当然として、**会社組織全体を意識することも心がけてほしい**と思います。そうして皆さんにリーダーを目指してほしい！



2年目社員の成長記録



2024年入社の静谷さん、小椋さんにインタビュー！
入社からの1年間で振り返り、成長を実感している2人の目標は、「現場での活躍」です。
今後の成長を楽しみに、皆で見守っていきましょう！



CS2部 6課
しずや たかのり
静谷 崇徳さん

この1年での成長

年上の職人さんたちとの関わりを深める、積極的なコミュニケーション

専門学校で建築を学んで入社しましたが、入社当初は、会社のことや社会人としての常識を理解していなかったと思います。しかし現在は、上司や先輩からの指導を受け、現場のために積極的に頑張ろうという気持ちになっています。学生時代には現場経験がなく、職人さんと接するようになったのは入社後。職人さんは年上で経験値が高く、私は監督という立場です。どのように接すれば良いかとでも難しく感じたのですが、積極的にコミュニケーションを取ることから始めました。今では色々なことを教えてもらえるようになり、成長を感じています。

もう少しここを頑張りたい！

自分なりの工夫でさらに円滑なやり取りを目指す

上司に代わって社外の方へメールを送ることがあります。頼まれたことに加えて、スムーズなやり取りができるように、自分なりの工夫を加えられたらと考えています。

2年目に向けての
意気込み

上司や先輩から学んだことを吸収し、現場で活かすことを目指します。特に力を入れるのは、コミュニケーション力の向上です。新しく入ってくる後輩にも、しっかりとした姿を見せられるように頑張ります！



匠戦略部 工事課
おくら いづき
小椋 稜生さん

この1年での成長

「作業一つひとつにかけた手間が、仕上がりに影響すること」を学んだ

現場に出るようになったのは入社から2か月後の6月。それ以前に基本作業を学んでいましたが、今振り返ると具体的にイメージできていなかったと思います。現場で先輩が作業する姿を見て、「言われていたのはこういうことだったのか！」「一手間かけるから仕上がりが良くなるのか！」と学びを発見。ものづくりにかける手間の大切さに気づき、自分で作業する際も気にかけるようになりました。

もう少しここを頑張りたい！

指示された際の言葉の意味を理解し動けるようになりたい

「〇〇を△△のようにして」と指示されたとき、パッと想像できないことがあります。そのため、仕事で教わったことを休憩時間にスマートフォンへメモを取ったり、同じ作業があったら自分で実行してみたり。すぐ行動に移すことを心がけ、教わったことを忘れず、指示に沿って動けるようになりたいと思います！

2年目に向けての
意気込み

今は、あまり皆さんの役に立っている自信がありませんが、指示を一発で理解し、作業を1人でもできるようになりたいと考えています。2年目の1年間で、「この人は頼りになるな」と思ってもらえるような、皆さんの仲間として役立つ職人を目指します！

NEW FACE

新しく日商インターライフの仲間に加わった2名をご紹介します。
趣味から抱負まで、2人を知るには要チェックです！



いしがね はると
石金 陽斗さん
出身地 埼玉県加須市

学生時代の部活動 バドミントン部

中学校～高校で所属していました。高校1年の最初の大会で、目標であった県大会出場を達成できたことが思い出に残っています。また、団体戦のチームで応援し合い、勝ち上がったときが一番嬉しかったです。

趣味 料理

最近のマイブームはペペロンチーノ作り。塩加減や火加減などで試行錯誤を重ねると、どんどん美味しくできるようになってきました。成長することに楽しさを感じます。



入社決め手

合同企業説明会の際に、会社の制度に興味を持ちました。それから会社訪問で職場や人の雰囲気惹かれ、「私も一員となって働きたい」と思ったことが決め手です。

ここを頑張りたい！

施工管理の知識や技術を積極的に学び、学校で身につけた図面作成のスキルを活かしていければと思っています。学校では経験のない、現場での仕事にたくさん挑戦したく思います！

皆さんへのメッセージ

日商インターライフで
新社会人生活をスタートできることに
大変喜びを感じています。
これから気を引き締めて、精一杯頑張ります。
ご指導のほどよろしくお願ひします。



ふるかわ ゆめな
古川 夢菜さん
出身地 栃木県足利市

学生時代の部活動 茶道部

高校で所属していました。週に1回の活動でしたが、お茶菓子を食べながら友人たちとのんびりお話しをする時間が、今思うと貴重でかけがえのない時間でした。部活のメンバーとは今でも交流があります！

趣味 かき氷

寒い時期は行けないのですが、夏は色々なかき氷屋さんを巡ります。クリームやフルーツが零れ落ちそうなほど盛られていて、ケーキを食べるよりも満足感があります！視覚的にも楽しめます。



入社決め手

紙媒体やデジタル分野、イベント関係や内装に関する点など、多岐にわたるデザインの仕事に携わっている点に魅力を感じました。ワクワクすることが好きなので、エンタメ系の仕事が多いところにも惹かれました。

ここを頑張りたい！

専門学校ではグラフィックデザインについて学びました。デザインといっても色々ありますが、動画制作やパッケージデザインなど、学んだことをできる限り活かし、多くの分野でデザインの経験を積んでいきたいと思っています。

皆さんへのメッセージ

できることを着実に増やし、少しでも早く一人前になれるよう頑張りたいと思います。
そして、50周年式典パーティーではたくさん話しかけてくださりありがとうございました。
春から皆様と働かせていただくのを心待ちにしています。よろしくお願ひいたします。